※令和４年度以降入学生用

学校番号	1010

令和８年度　芸術科　［書道］

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	書Ⅰ（光村出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道では古典を通して芸術科書道の幅広い表現を味わい、進歩が実感できるよう取り組みましょう。
・一枚一枚、一字一字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら、臨書や創作を経て丁寧で美しい文字が書けることを目指します。
・生活に生かせる書を制作することで書に親しみを感じ、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになりましょう。

2　学習の到達目標

・生徒が書に興味を持ち、主体的に学ぶことで自分の書に向かい合うことができるようにする。
・古典を学ぶことで創造の根源となる感性を高め、表現力と鑑賞力を相乗的に培いながら自己表現へと高めていく。
・書の伝統と文化について多角的なアプローチで理解を深め、文化に親しみ、次世代へ継承していく態度を育成する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	古典臨書を通して多様な書体、書風の特徴を理解するとともに、書の基礎的な技能を身につけている。	書の良さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自分の意図に基づいて構想し、表現するために練習を重ね工夫している。	古典の多様な特徴を理解し作品を制作する態度、毎回の自己評価により、問題点について考察を深めたり改善したりしようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	漢字楷書	・書体の変遷 ・楷書の学習 ・様々な楷書(古典 4 課題) ・背勢と向勢 ・露峰と蔵峰	A：幹事について歴史的な理解を深め、鑑賞や臨書することの意義を理解する。 点画や字形の特徴をとらえる。 b:楷書についてさまざまな観点から考察し特徴についての理解を深める。 各古典を比較して表現や趣の違いを感じ取る。 c:漢字の書の伝統と文化に関わり、主体的に表現の創造的活動に取り組もうとしている。	・ワークシート ・作品	・観察 ・作品	・振り返りシート ・観察
	篆刻	・篆刻の用具・用材 ・名印の制作 ・篆書体を使用する ・彫る手順	a:印稿作りにおいて篆書体の存在を知る。 篆刻制作時に彫り方の手順や方法を知る。 b: 印稿作りや彫り方について理解し、作品と印の関係や効果について理解し表現を工夫している。 c:印の様々な書風や表現に意欲的に取り組もうとしている。	・ワークシート ・作品	・観察 ・作品	・振り返りシート ・観察
2学期	漢字行書	・様々な行書 ・行書の基本とそれぞれの特徴を知る。 ・四字熟語を行書で創作する	a:行書を歴史的、日常的な観点から考察し、その特徴を理解する。古典の鑑賞や臨書を通して、用筆法・運筆法を学ぶ。 b: 時代や歴史的事実を背景に、習得した技法を生かした表現を身につけている。 c: 古典の多様な特徴を理解し表現するために取り組んでいる。	・ワークシート ・作品	・観察 ・作品	・振り返りシート ・観察

※令和４年度以降入学生用

	仮名	・仮名の成立と発展 ・基本的な筆使い ・単体と連綿	a:仮名の成立や変遷、種類、字源を理解する。 単体や連綿などの基本的用筆を身につけている。 b:身につけた技法を自らの意図に基づいて表現している。古典の技法を生かし、形式や構成を工夫している。 c: 技法や構成の違いによる表現上の効果について考えている。	・ワークシート ・作品	・観察 ・作品	・振り返りシート ・観察
3学期	漢字仮名交じりの書	・漢字の書風に調和するひらがなを選ぶ ・自分が選んだ詩文を和紙ファイルに創作する	a：題材となる言葉や詩文の選定について考える。 学習してきた古典を基盤に自分の感性を生かし、作品制作をしている。 b:漢字と仮名の調和を考え魅力的な表現をしている。 c:文字の大きさや配置についてよく考えている。	・ワークシート ・作品	・観察 ・作品	・振り返りシート ・観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度